

科目名	特別講座Ⅰ（施工管理）選択										
科目名(英)											
単位数	7単位				時間数	108時間		担当者	橘 俊明		
実施年度	2019年度				実施時期	後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築士専攻科 1年										
授業概要	2施工 学科試験合格を視野に、問題読解に必要な知識を要点を絞り込んで身につけていきます。 また、理解度確認のため小テスト、模擬テストを複数回、実施し実力をつけていきます。										
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：	※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				建築施工に関する専門用語の意味を正しく説明できる。					
	○	○				小テストの平均正解率60%以上を獲得できる。					
	○	○				模擬テストの平均正解率60%以上を獲得できる。					
テキスト・教材 参考図書	① 2級建築施工管理技士要点テキスト(2019年度版)市ヶ谷出版社 ② 2級建築施工管理技士即戦問題集(2019年度版)市ヶ谷出版社										
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
	1	1章 建築学 01 環境工学						・テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと ・授業内容に係る複数回、小テスト・模擬テストを実施するので、復習しておくこと			
	2	※以下、授業にて毎回確認テストを実施									
	3										
	4	02 構造力学									
	5	03 一般構造									
	6										
	7	04 建築材料									
	8	2章 共通 05 舗装・植栽工事									
	9										
	10	06 建築設備									
	11	07 設計図書・測量									
	12										
	13	3章 建築法規 08 建築基準法									
	14	09 建設業法									
	15										
	16	10 労働基準法									
	17	11 労働安全衛生法									
	18										
	19	12 環境保全関係法、その他									
	20	4章 施工管理法 13 施工計画									
	21										
	22	14 工程管理									
	23	15 品質管理									
	24										
	25	16 安全管理									
	26	5章 建築施工 17 地盤調査									
	27										
	28	18 仮設工事									
	29	19 地業									
	30										
	31	20 土工事									
	32	21 鉄筋コンクリート工事									
33											
34	22 特殊コンクリート工事										
35	23 鉄骨工事										
36											
37	24 木工事										
38	25 防水工事、石工事										
39											
40	26 タイル工事、屋根工事										
41	27 金属工事、左官工事										
42											
43	28 建具工事、塗装工事										
44	29 内外装工事、建設機械										
45											
46											
47											
48											
49											
50											
51											
52											
53											
54											
30	総まとめ										
評価方法	(1)授業の中で小テストを基本毎回、複数回確認テスト(模擬テスト)を実施する。 (2)出席状況、受講態度を評価に加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	出席状況・受講態度	○	○				30%				
	小テスト、模擬テスト	○	○				70%				
履修上の注意	出席が総コマ数の2/3に満たない場合には、単位を与えない。また、ゼミ受講に対する意欲が感じられないと判断した場合は、ゼミへの出席停止を指示する事がある。										

科目名	特別講座Ⅱ（インターンシップ）選択									
科目名(英)										
単位数	28単位		時間数		424時間		担当者		各担任	
実施年度	2019年度		実施時期		後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築士専攻科(建築士) 1年									
授業概要	社会人基礎力」とは、経済産業省によって「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」(「社会人基礎力」)を定義した「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力です。 社会人として仕事を進めていく過程で、この3つの能力を常に意識して、自ら成長しましょう。									
授業形式	講義：△		演習：		実習：○		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○		○		「前に踏み出す力」(アクション)」				
		○		○		「考え抜く力」(シンキング)」				
		○		○		「チームで働く力」(チームワーク)				
テキスト・教材 参考図書	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
		1. 「前に踏み出す力」(アクション)」								
		2. 「考え抜く力」(シンキング)」								
		3. 「チームで働く力」(チームワーク)								
		前に踏み出す力(アクション)主体性 (物事に進んで取り組む力)								
		前に踏み出す力(アクション)働きかけ力 (他人に働きかけ、目的に前進する力)								
		前に踏み出す力(アクション)実行力 (目的を設定し、確実に行動する力)								
	1	考え抜く力(シンキング)課題発見力 (現状を分析し、目的や課題を明らかにする力)								
	5									
	2	考え抜く力(シンキング)計画力 (課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力)								
	2									
		考え抜く力(シンキング)創造力 (新しい価値を生み出す力)								
		チームで働く力(チームワーク)(自分の意見をわかりやすく伝える力)								
		チームで働く力(チームワーク)傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)								
		チームで働く力(チームワーク)規律性 (社会のルールや人との約束を守る力)								
	チームで働く力(チームワーク)規律性 ストレスコントロール力 (ストレスの発生源に対応する力)									
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	受講態度・意欲		○		○		30%			
	課題の提出		○		○		10%			
	インターンシップ報告提出		○		○		60%			
履修上の注意	講座の内容は変更することがあります。									

科目名	特別講座Ⅲ(卒業制作)選択							
科目名(英)								
単位数	28単位		時間数	424時間		担当者	納富 友羅	
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築士専攻科(建築士)							
授業概要	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をととして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。							
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技： ※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○		○		卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。		
テキスト・教材 参考図書	『建築学の基礎7 建築防災』大宮喜文,共立出版							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
		全体および卒業研究グループ(ゼミ)でのオリエンテーション(全教員)				卒業研究グループ(ゼミ)ごとに、指導教官のもとで課題設定、調査、研究、考察、提案をおこない定期的に報告を行う。		
		課題設定						
		調査、研究1						
		調査、研究2						
		プログラム1						
		エスキス1						
		コンセプト1						
	1	プランニング1						
	5	中間報告						
	1	調査、研究3						
	3	コンセプト2						
	5	プランニング2						
		中間発表 ポスターセッション						
		プレゼンテーション1						
		プレゼンテーション2						
		最終発表、講評、審査						
評価方法	■必要学習時間の目安424時間「作品課題」または「研究論文」							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	作品課題	○	○		○		100%	
履修上の注意	1.卒業研究は、当該年度卒業が見込めるまで学習が進捗していることが履修要件になります。							

科目名	特別講座Ⅳ(就職実務)選択						
科目名(英)							
単位数	28単位		時間数	424時間		担当者	各担任
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員担当科目	
対象学科・学年	建築士専攻科(建築士)						
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職活動に必要な自己分析を行うことができる	
	○	○	○			基本的な面接対応ができる	
		○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある	
	○	○				企業研究の方法を知っている	
	○					学校求人を利用するための条件を知っている	
テキスト・教材 参考図書	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
		就職活動における心構え / 働くということを考える 知る				就職活動ガイドブック熟読する	
		就職活動における心構え / 自分が働く業界の形態や常識を知る				就職活動ガイドブック熟読する	
		就職活動における心構え / 業界に必要なサービスとは				就職活動ガイドブック熟読する	
		就職活動における心構え / 業界に必要なスキルとは				就職活動ガイドブック熟読する	
		就職活動における心構え / 作品集の価値とは				就職活動ガイドブック熟読する	
		就職活動における心構え / 作品集をイメージする1				就職活動ガイドブック熟読する	
		就職活動における心構え / 作品集をイメージする2				就職活動ガイドブック熟読する	
		就職活動における心構え / 自分の作品集計画を見つめ直す				就職活動ガイドブック熟読する	
		履歴書 / 自己分析 自己PR				就職活動ガイドブック熟読する	
		履歴書 / 自己分析 得意分野 特記事項				就職活動ガイドブック熟読する	
		履歴書 / 自己分析を履歴書としてまとめる				就職活動ガイドブック熟読する	
		面接練習 / 面接の重要性 意味を知る				就職活動ガイドブック熟読する	
		面接練習 / 入退室の練習				就職活動ガイドブック熟読する	
		面接練習 / 面接練習を各自実施 履歴書の内容を話すトレーニング				就職活動ガイドブック熟読する	
		就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
		就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	1	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	5	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	2	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	1	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	2	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
		就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
		就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
		就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
		就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
		就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
		就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
		就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
		就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
		就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
		就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
		就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習						
	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習						
	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習						
	社会人研修						
	面接練習 / 面接練習を各自実施 履歴書の内容を話すトレーニング				就職活動ガイドブック熟読する		
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名		建築史（通信）										
科目名(英)												
単位数		2単位		時間数 <td colspan="2">90時間</td> <th colspan="2">担当者</th> <td colspan="2">今泉 清太</td>		90時間		担当者		今泉 清太		
実施年度		2019年度		実施時期		後期		実務家教員 担当科目				
対象学科・学年		建築士専攻科(大学併修コース)										
授業概要		各時代の権力者は政治・経済・文化を背景にその時代の先端技術・芸術を駆使し見事な空間・構造・装飾による建築を創造し続けた。一方、庶民はその地方性、風土性の影響の中で伝統的な技術手段でゆっくりとした変遷を辿り美しい民家・町家を造り続けた。近代に入ってこの2つは普遍化し現代建築が展開している。この歴史の中で専門家達(僧侶、棟梁、職人、建築家、技術者)が各時代に何を基本的技法手段で建造したのか、その内容を深く学びとることが明日の建築文化を創造する大切な姿勢であることを学ぶ。										
授業形式		講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)		英語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標					
		○	○		○		日本建築・西洋建築・近代建築の変遷と、各時代・地域における様式・構造・技術の特徴を理解し、それらをつくりだした理念や社会背景など文化の特質について説明することができる。					
テキスト・教材 参考図書		建築史 増補改訂版(市ヶ谷出版社)										
授業計画		回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
		1 5 3 0	第1課題 として 日本の住宅史の中で展開する寝殿造、書院造、数寄屋造の3つの様式の中から一つ選び、その住居形式の構成と生活様式の関連でどの様な約束、仕組みで生活空間が展開したのか詳しく述べる。						歴史学、美術史学に関する知識があると望ましい。 在学中に、できるだけたくさん有名な建築を見学してください。 レポート課題解答のポイントを参考にする。			
			(1)日本古代の建築(2)日本中世の建築(3)日本近世の建築 西洋建築史 について。									
			参考図書を通し、寝殿造、書院造、数寄屋造の建築形式を理解し、そこに展開する空間構成の晴と藝との生活様式とが具体的にどの様な造りで構成されているのか、例えば飾り、用具、家具類によって“しつらい”されているのか、それが日本文化の豊かな生活空間を織りなしていたのか、明らかに記述する。									
			第2課題 近世ルネッサンス期に建築家が建築理論に基づき見事な建築空間を創造した。その歴史的背景と建築家を選び、事例とその理論体系について説明せよ。									
			(1)西洋古代の建築(2)西洋中世の建築(3)西洋近世の建築 近代建築史について。									
		3 1 5 4 5	(1)近代建築の発生(2)近代建築の発展(3)日本の近代建築 について。									
			近世ルネッサンス時代、ローマの建築家ヴィトルヴィウスの建築理論の“建築の書”が発見され、この理論に基づき建築家達が建築理論を展開し見事な建築を残したことについて、参考書を通し、その理論と事例の関連で良く理解し記述する。									
			近世ルネッサンス時代、ローマの建築家ヴィトルヴィウスの建築理論の“建築の書”が発見され、この理論に基づき建築家達が建築理論を展開し見事な建築を残したことについて、参考書を通し、その理論と事例の関連で良く理解し記述する。									
			仏寺建築様式の伝播時期・経路や成立過程、並びに宗教との関係を述べ、建築的特色を解説する。									
			ギリシア時代、ローマ時代、それ以後の3期に大別し、その特色と変遷を説明する。									
			代表的な建築名称をあげ、その構造システムや装飾を図示して解説する。									
			ロココ建築と新古典主義建築の関係があげられ、その建築思想を実例をあげ説明する。									
			産業革命後の技術者の事例をあげ、やがて合理主義建築に移行していく背景を考える。									
			近代建築を代表する建築家をあげ、その事例と建築理論を述べる。									
			幕末、明治の洋風建築の輸入と普及には、居留地、工場、外人技師、教育などが関わっている。									
			試験									
評価方法			■必要学習時間の目安「レポート課題」→レポート提出により内容評価 60時間「科目終末試験」30時間→期末試験点数による評価 ■レポート提出についてA4版市販用紙の使用も可									
			言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
		科目終末試験		○	○		○		50%			
		レポート提出		○	○				50%			
履修上の注意		大学通信課程履修者のみ提出及び受験が可能。										

科目名		地球環境と建築（通信）					
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	90時間		担当者	今泉清太	
実施年度	2019年度	実施時期	後期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築士専攻科(大学併修コース)						
授業概要	環境状況を把握しコントロールするための知識を踏まえて、地球環境や都市環境に配慮した建築を考えていく、上でのデザイン手法について学習する。建築がどれだけ地球環境問題解決に寄与できるか、その理念や目標、具体的な手法を理解し、サステナブル社会におけるこれからの建築のあり方を示す地球環境建築について考える。						
授業形式	講義：○	演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		地球スケールで起きている環境問題と建築におけるサステナビリティを理解し、地球環境問題の解決に貢献出来る	
	○	○		○		「地球環境・建築憲章とその運用指針」の理念を理解し、建築技術、建築活動として具体化することができる。	
テキスト・教材 参考図書	地球環境建築のすすめ（彰国社）						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1530	環境に与える負荷の少ない持続可能な建築のあり方について。				試験は第1課題から第10課題のうち二問が出題されます。ポイントをおさえて論述して下さい。ホームページの記事をそのまま書き写すのではなく、自身の言葉でまとめておく。	
		都市(もしくは 田園、森林など、)が抱える環境的な問題や課題を指摘し、持続可能な地球環境を形成する上で有効な解決策について。					
		京都議定書の要点を整理するとともに、我が国および各国の達成度やその後の気候変動枠組み条件に関する動向などについて。					
		LCAの概念や評価手法を整理してまとめるとともに、現状における評価上の課題について。					
		地球環境・建築憲章を概説するとともに、理念に合致した建築事例(名称、建物概要を示す)を一件取り上げ、憲章の各項目にどのように対応しているか。					
	31545	日本(もしくは海外の特定地域)の気候風土の特徴を概説し、それに対応して行われてきた建築的な工夫、生活上の工夫をまとめ。					
		ヒートアイランド現象の要因を列举、概要を説明するとともに、具体的な緩和策。					
		パッシブデザインの概念を説明するとともに、具体的な建築事例一件をあげて、用いられている手法と効果について説明。					
		日本の森林が荒廃している現状とこれに至る原因について述べ、これを打開するためのアイデアや木材資源の活用策について。					
		我が国の省エネ基準の概要と変遷、今後の省エネ推進を図る上での課題。					
		PALとCECの概念を説明するとともに、効率を高めるための手法やシステムについて。					
		試験					
評価方法	■必要学習時間の目安「レポート課題」60時間→レポート提出により内容評価 60時間「科目終末試験」30時間→期末試験点数による評価 ■レポート提出についてA4版市販用紙の使用も可						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	科目終末試験	○	○				50%
	レポート提出	○	○		○		50%
履修上の注意	大学通信課程履修者のみ提出及び受験が可能。						

科目名	福祉と建築（通信）								
科目名（英）									
単位数	2単位		時間数		90時間		担当者	今泉 清太	
実施年度	2019年度		実施時期		後期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築士専攻科（大学併修コース）								
授業概要	高度福祉社会の実現を目指し、健常者のみならず高齢者や障害者にとって、住みやすく、安心して暮らせる住環境と地域社会が求められる。福祉支援に関するこれまでの法制度や高齢者・障害者の身体的特徴、福祉住環境設備の技術的内容について学習し、ノーマライゼーションの理論に基づいた、住宅や設備、地域施設や交通機関のバリアフリー化とユニバーサルデザインの具体的な計画・設計手法について理解する。								
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 （到達目標）	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○		○		福祉支援に関する法制度や高齢者・障害者の身体的特徴、福祉住環境整備の技術的内容について学習し、ノーマライゼーションの概念に基づいた、バリアフリーやユニバーサルデザインの具体的な計画・設計手法について理解する。			
テキスト・教材 参考図書	『福祉住環境 新版』大野隆司,市ヶ谷出版								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1 5 3 0	(1)第1課題 日本における、昨今の高齢者・障害者をとりまく社会情勢や家族形態の変化と、これを踏まえた住環境整備の目的について説明。					ノーマライゼーションの概念、少子高齢化、バリアフリーとユニバーサルデザイン、福祉に関する法制度、住環境整備の目的と意義 を調べておく		
		(2)第2課題高齢者・障害者の視点から、日本の伝統的住様式による住宅の問題点について説明。							
	3 1 5 4 5	試験設題のポイント 急速に少子高齢化が進む中、人口構造の変化による、国の財政圧迫を軽減するためにはどのような対策が考えられるか。国の福祉政策はどのようにになっているか。またこれに対し、戦後、家族形態が核家族化、小規模化していることで、どのような問題があるのか。住環境を整備することによって、高齢者・障害者にどのような利点があるのか。以上の点から住環境整備の目的と意義を考える。							
		第2課題 構造・基準寸法・生活様式・住宅事情の点から、住宅をバリアフリー化するために問題となる点を考える。							
		試験							
評価方法	■必要学習時間の目安「レポート課題」60時間→レポート提出により内容評価 60時間「科目終末試験」30時間→期末試験点数による評価 ■レポート提出についてA4版市販用紙の使用も可								
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲		その他	評価割合
	科目終末試験		○	○				50%	
	レポート提出		○	○		○		50%	
履修上の注意	大学通信課程履修者のみ提出及び受験が可能。								

科目名	卒業研究Ⅰ（通信）										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	今泉 清太				
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	建築士専攻科(大学併修コース)										
授業概要	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をととして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。										
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○		○		卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。					
テキスト・教材 参考図書	『建築学の基礎7 建築防災』大宮喜文,共立出版										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	全体および卒業研究グループ(ゼミ)でのオリエンテーション(全教員)					卒業研究グループ(ゼミ)ごとに、指導教官のもとで課題設定、調査、研究、考察、提案をおこない定期的に報告を行う。				
	2	課題設定 (全教員)									
	3	調査、研究1 (全教員)									
	4	調査、研究2 (全教員)									
	5	プログラム1 (全教員)									
	6	エスキス1 (全教員)									
	7	コンセプト1 (全教員)									
	8	プランニング1(全教員)									
	9	中間報告 (全教員)									
	10	調査、研究3 (全教員)									
	11	コンセプト2 (全教員)									
	12	プランニング2(全教員)									
	13	中間発表 ポスターセッション(全教員)									
	14	プレゼンテーション1 (全教員)									
	15	プレゼンテーション2 (全教員)									
	16	最終発表、講評、審査 (全教員)									
評価方法	■必要学習の目安「作品課題」または「研究論文」										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	作品課題	○	○		○		100%				
履修上の注意	1.卒業研究は、当該年度卒業が見込めるまで学習が進捗していることが履修要件になります。										

科目名	建築デザイン論(通信)								
科目名(英)									
単位数	2単位		時間数	90時間		担当者	今泉 清太		
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築士専攻科(大学併修コース)								
授業概要	近代以降、デザインは「製造に先立ち形を造ること」と定義されている。これに従えば、建築デザインとは「施工に先立ち建築空間の形を造ること」と言えるだろう。建築デザイン論では、この「形」という面から建築を考えてみる。建築空間とそれを構成する建造物の形態について学び、どのようなデザイン手法によってこれらが造り出されていくのかを習得しよう。								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○		○		テキストを通読し建築デザインの手法についての基本概念がある。			
	○	○		○		建築を形態によって分析し、建築デザインの手法についての理解する。			
	○	○		○		建築デザインの持つ広範な可能性や問題点について考察できる。			
テキスト・教材 参考図書	「空間デザイン辞典」日本建築学会 井上書院								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1 5 4 5	(1)第1課題 身近にある公共的な建築(役場、駅舎、集会場、学校、美術館など)でデザイン的に優れているとあなたが考えるものを1つ選び、以下に挙げるデザイン手法のうち5つ以上を用いて、建築を形態により分析。その上で、その建築がどのようなコンセプトに基づいて設計されているか考察する。				テキストを熟読する。			
		[手法] 立てる／覆う／囲う／積む／組む／掘る・刻む／並べる／整える／区切る／混ぜる／つなぐ／対比させる／変形させる／浮かす／透かす・抜く／動きを与える／飾る／象徴させる／自然を取り込む／時間を語る							
		科目終末試験							
評価方法	■必要学習時間の目安「レポート課題」45時間→レポート提出により内容評価 「科目終末試験」45時間→期末試験点数による評価 ■レポート提出についてA4版市販用紙の使用も可								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	科目終末試験	○	○				50%		
	レポート提出	○	○		○		50%		
履修上の注意	大学通信課程履修者のみ提出及び受験が可能。19年度以前の履修登録者は、19年度の課題で行ってもよいものとしますが、レポートと試験にその旨を明記して下さい。19年度の課題は、19年度科目概要を参照のこと。								

科目名	建築史演習(通信)								
科目名(英)									
単位数	2単位		時間数	90時間		担当者	今泉 清太		
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建築士専攻科(大学併修コース)								
授業概要	建築の歴史は人類の誕生と共にあり、原始の洞窟住居や木陰での生活から、次第に様々な材料を使用し、建築を発展させてきた。古代エジプトの巨大なピラミッド、西欧の荘厳な教会堂、アジアの洗練された寺院などの宗教的な建物や、支配者階級の宮殿では技術の粋を集めた建築が造られてきた。しかし、これまでは、建築史というと、もっぱら宗教施設や宮殿などのモニュメンタルな建築物単体によって、様式などが語られてきたが、一般的な住居の歴史についても目を向けることは重要である。住居は、日干し煉瓦や石材、木材などの身近な材料によって、日々の暮らしのための建物が造られてきた。建築は時代や地域により、様々なバリエーションが生み出されてきた。身近な建築から建築史を紐解くことも大切な作業といえる。また、近年では集合体として捉え、「都市」や「まち」といったマクロな視点で建築史を捉えることも必要であり、近年都市史に対する研究が高まってきている。								
授業形式	講義：	○	演習：	△	実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○		○		歴史的建造物を実際に観察して、調査・分析し、歴史的変遷や建築的特徴を明らかにする。			
	○	○		○		都市や集落は、いかにして建築が造られ、建物が集合し、発展してきたか、文献史料や現地調査を基に、歴史性や地域性、文化的背景を踏まえて多角的に考察する			
テキスト・教材 参考図書	実測術サーベイで都市を読む・建築を学ぶ(学芸出版社)								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1 5 4 5	第1課題 歴史的建築物を実際に観察して、調査・分析する。日本では寺社仏閣、離宮、国宝や重要文化財などに指定されている建造物など、また、海外では宗教施設、宮殿、モニュメンタルな建造物などを、実際に訪れ、聞き取りや簡単な実測、スケッチをして、レポートにまとめる。					第1課題では、テキストとして、『実測術－サーベイで都市を読む・建築を学ぶ』(学芸出版社)、『西洋建築史図集』(彰国社)、『東洋建築史図集』(彰国社)、『日本建築史図集』(彰国社)に掲載されている建築を取り上げてください。		
		歴史的建造物を実際に観察して、調査・分析する。							
		第2課題 伝統的な都市や村などについて、まち並みや建築スタイルなどを観察し、その歴史的な発展を調査・分析する。					第2課題では、『実測術－サーベイで都市を読む・建築を学ぶ』(学芸出版社)、都市史図集(彰国社)をよく読み、都市や村での実測について参考にしてください。		
		都市や集落は、いかにして建築が造られ、建物が集合し、発展してきたか、文献史料や現地調査を踏まえ、研究を行う。							
		日本や海外の都市や村などにおいて、その発展の歴史的な過程、重要な建築物、建物の集合の仕方、商業空間のあり方、住居形式について、調査、研究を行ない、レポートをまとめること。							
評価方法	■必要学習時間の目安「レポート課題」90時間→レポート提出により内容評価								
	■レポート提出についてA4版市販用紙の使用も可								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	レポート提出	○	○		○		100%		
履修上の注意	大学通信課程履修者のみ提出及び受験が可能。								

科目名	防災と建築（通信）						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	90時間	担当者	今泉 清太	
実施年度	2019年度		実施時期	後期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築士専攻科(大学併修コース)						
授業概要	建築には人命や財産を保全するという役割がある。東日本大震災やそれに伴う津波、阪神・淡路大震災などの巨大災害、あるいは都市型洪水などを事例に出すまでもなく、建築の歴史を振り返れば、地震や大火、風水害との戦いの積み重ねであったと言っても過言ではない。本科目では広く建築に係わる災害や事故を未然に防止する方策や、被害を軽減する方法について学ぶ。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		広く建築に係わる災害や事故を未然に防止する方策や、被害を軽減する方法について学ぶ。	
テキスト・教材 参考図書	『建築学の基礎7 建築防災』大宮喜文,共立出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
		第1課題 木造建築・耐火造建築における火災の特性を考察し、それぞれの火災の防止、あるいは火災による被害の低減のため建築上考慮すべき事柄や対策。				都市災害 地震防災 気象災害 住宅事故 について事前調査をしておく。	
	1 5 4 5	第2課題 震が建築物に与える災害について考察し、地震の被害から建築物や人命を守る方法。					
		第3課題 住宅内で起こる事故の例を3つあげ、その防止策について。					
		第4課題 気象に起因する災害について3つ例をあげて考察し、その防止策について。					
評価方法	■必要学習時間の目安「レポート課題」60時間→レポート提出により内容評価 60時間「科目終末試験」30時間→期末試験点数による評価 ■レポート提出についてA4版市販用紙の使用も可						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	科目終末試験	○	○				50%
	レポート提出	○	○		○		50%
履修上の注意	大学通信課程履修者のみ提出及び受験が可能。						

科目名	卒業研究Ⅱ（スクーリング）							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30		担当者	今泉 清太	
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築士専攻科(大学併修コース)							
授業概要	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。							
授業形式	講義：△		演習：○	実習：		実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標		
	○	○		○		卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	全体および卒業研究グループ(ゼミ)でのオリエンテーション(全教員)					卒業研究グループ(ゼミ)ごとに、指導教官のもとで課題設定、調査、研究、考察、提案をおこない定期的に報告を行う。	
	2	課題設定 (全教員)						
	3	調査、研究1 (全教員)						
	4	調査、研究2 (全教員)						
	5	プログラム1 (全教員)						
	6	エスキス1 (全教員)						
	7	コンセプト1 (全教員)						
	8	プランニング1(全教員)						
	9	中間報告 (全教員)						
	10	調査、研究3 (全教員)						
	11	コンセプト2 (全教員)						
	12	プランニング2(全教員)						
	13	中間発表 ポスターセッション(全教員)						
	14	プレゼンテーション1 (全教員)						
	15	レゼンテーション2 (全教員)						
	16	最終発表、講評、審査 (全教員)						
評価方法	■必要学習時間の目安「作品課題」または「研究論文」270時間							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作品課題		○	○		○		100%
履修上の注意	1.卒業研究は、当該年度卒業が見込めるまで学習が進捗していることが履修要件になります。							